

校長室だより

令和4年1月

新たな年を迎えても、この2年ほど続いているコロナ禍が少しでも収束に向かうよう祈る日々が続いています。高取国際高校に勤め始めてから2度目の正月を迎えますが、来年の正月こそは普通の日常に戻っていることを、今からもう願っています。

さて、「祈る」や「願う」という言葉を、これほど頻繁に今までは使うことがなかったと、最近になってよく思いますが、皆さんはどうでしょうか。私も今まで何度か様々な祈りや願い事はしてきましたが、一番記憶に残る祈りは大学時代のある思い出です。残念ながら紙面の都合上、これについては別の機会にお話できればと思います。

ところで、祈ったり願ったりしたことが叶ったときには運があると言い、その逆に思い通りにならないときには運が無かったと言いますが、さて、この「運」はどこから来るのでしょうか。

はるか以前に誰かに教えてもらったのが、「運」は日頃の自分が運んでくるもので、日常のあなたが運を呼び込んだり遠ざけたりしているのですよ、というものでした。つまり、運のあるなしは因果応報であり、常日頃の自身の言動をちゃんとすることが大切ですね、と教えられた記憶があります。

願いが叶うよう祈ると同時に大切なことは、運を引き寄せるための日々を歩むこと。

私たちに出来るのは、その時々を精一杯に生きること。『人事を尽くして天命を待つ』の言葉のように、新たな目標に向かって、毎日をより丁寧に精一杯やり尽くすことが大切だと考えます。

明けましておめでとう。今年もどうぞよろしく申し上げます。